千葉県立八千代高等学校
同窓会会報

令和６年３月号
令和６年３月６日発行
発行：八千代高校同窓会
総会員数：20,766名
同窓会HP QR

2024年パリ五輪に柔道角田選手、スポーツクライミング安楽選手内定!!

2023年５月、角田夏実選手（体育科38期生）がドーハで行われた柔道世界選手権女子48kg級で優勝し、世界選手権３連覇を果たして早々と2024年パリオリンピックに出場内定。

また、11月には安楽宙斗選手（普通科2年生）がジャカルタで行われたスポーツクライミング競技のパリオリンピックアジア予選で、ボルダーとリードの複合で優勝し、パリオリンピックへの出場権を獲得しました。

両選手とも金メダルを狙える実力の持ち主にてパリオリンピックでの活躍を期待しましょう。

※写真提供：Lena Drapella/IFSC・了徳寺大学

同窓会からのお知らせ

◆クラス会に補助金
- 補助金額　１万円（１開催）
- 補助金交付期限　卒業後５年まで（但し、１年１回）
- 申請方法：申請書類をＨＰからダウンロードし、記入の上提出願います。
  詳細は八千代高校同窓会担当職員までお問い合わせください。

◆令和６年度総会開催
同窓会総会を下記のとおり開催いたしますので、皆様のご出席をお待ちしています。
- 期日　令和６年４月13日（土）
- 時間　午後１時から
- 場所　八千代高校八千代寮

◆役員紹介

会　長	後藤　　真	（S54年卒）
副会長	金子　保敏	（S55年卒）
〃　〃	都丸　輝信	（校　長）
書　記	月村　路子	（H14年卒）
〃	三浦　祐輝	（H20年卒）
会　計	嶋崎　雄斗	（H17年卒）
〃	安部　　文	（事 務 長）
監　査	稲垣　雄一	（S48年卒）
〃	丹治　行雄	（S48年卒）
顧　問	桑原　妙子	（S43年卒）
〃	立石　梅夫	（S48年卒）

HP　https://www.yachiko-dousoukai.com

活躍する同窓生

同窓生には、スポーツ界、芸能界、実業界などで活躍している人がたくさんいます。今回は法曹界で活躍する同窓生を紹介します。

「わが母校八千代高校に思うこと」

株式会社バスクリン　代表取締役社長　三枚堂　正悟（昭和57年3月体育科卒）

株式会社バスクリン 代表取締役社長

八千代高校時代

小学生時の娘さんと

私が八千代高校を知ったのは、中学3年生の夏休みでした。たまたまNHK教育テレビ（現在のEテレ）で放映されていたのが、全国高校総体サッカーの決勝戦でした。高校へ行ってもサッカーを続けようと思っていた私は、夏休み明けに担任の先生に八千代高校のことを尋ねると「体育科もあるからあなたにはピッタリかもね」ということで、迷うことなく進路を定めました。運よく入学すると部活は大変でしたが、学校生活はとても新鮮で楽しく充実した日々でした。八千代高校は文武両道を掲げておりますが、私が両立できたかは定かではありません。ですが部活をベースにしながら楽しい学校生活を送れたことは確かです。

高校卒業後は日本大学へ進学しサッカーも続け、一時は教員を目指しておりましたが、最終的には違う道を選択し、1991年にアース製薬株式会社へ入社しました。営業を経験の後2002年に株式上場の準備を任され2005年東証上場後は、IRなど経営企画を基軸として従事しました。この後、執行役員、取締役と昇進し、2019年に子会社である株式会社バスクリンへ転籍します。そして、2020年2月には代表取締役社長を拝命し現在に至ります。

会社人生の中では、なかなか実力値が足りていない自分でありましたが、しっかり歩みを進められたのは、八千代高校で培った3年間があったからだと考えています。そして、サッカー部の監督でありました青木先生の言葉がいつも心にあります。「好きこそ物の上手なれ」「無事これ名馬」は、仕事をしていく中でまさしく必要不可欠なものであることを、今でも実感しています。

株式会社バスクリンは、日本における入浴剤のパイオニアの会社です。日本のお風呂文化を通じて、生活者の方に身体と心と環境の調和を図り、健やかで心地よい生活の提供に努めております。入浴は競技者のリカバリーにも効果があることが実証されるなど、スポーツとも親和性があり、私としては、これこそが高校大学とスポーツに関わったたことが生きていると考えています。

八千代高校のみなさんへ、みなさんの可能性は未知数です。自分を信じて目標に向かって一歩一歩前進してみてください。目標が見つからない人は、今やれることを一生懸命に取り組むことで、何かが見えてくると思います。自分の可能性を自ら否定をせず、常に「できるようにするにはどうしたら良いか」を考える人になって欲しいと願います。そうしたことも、八千代高校で学んだことで実証されるように感じます。人生チャレンジです。みなさんのこれからの活躍を心より祈っております。

略　歴

1982年3月	八千代高校体育科卒業
1986年3月	日本大学文理学部体育学科卒業
1991年4月	アース製薬株式会社入社
2014年3月	役員待遇 管理本部 経営企画部部長
2015年2月	株式会社バスクリン 取締役（非常勤）
2015年3月	アース製薬株式会社 取締役 経営企画部部長
2016年9月	アース製薬株式会社 取締役 経営統括部統括部長 （兼）ニューチャネル事業部事業部長
2019年3月	株式会社バスクリン 取締役 経営管理部長 （兼）アース製薬株式会社 上席執行役員 ニューチャネル事業部事業部長
2020年2月	株式会社バスクリン 代表取締役社長

「ベンチャーのすすめ」

株式会社デジタルホールディングス会長　鉢嶺　登（昭和61年３月普通科卒）

社員総会での挨拶

社員総会のステージ

社員総会会場の様子

　私は、ベンチャー起業家です。1994年に会社を興してから、2024年でちょうど30周年を迎えます。起業してから10年で上場し、それから10年で東証一部（現：東証プライム）上場企業となり、とても恵まれた人生であると日々幸せを感じています。若者の皆さんにも、是非、起業を人生の選択肢の一つに加えて欲しいと心から願っています。私の周りには起業家が沢山いますが、規模の大小に関わらず皆イキイキとしています。それほど起業はエキサイティングで、面白いです。

　私が起業した頃は、ベンチャー企業を支援する仕組みが全く整っていませんでした。しかし、ベンチャー企業が次々と経済を牽引し、社会の繁栄を生み出している米国に習い、日本でもベンチャー企業への支援がここ30年でかなり充実してきました。今では失敗してもほぼリスクが無く、成功した時のリターンは極めて大きいものとなりました。実際に優秀な人材こそが起業をし、その次に優秀な人材がベンチャー企業に幹部として入社し、その次が大企業、最後が公務員という米国式の価値観に日本も近づいています。

　私が起業を志したのは中学生の時でした。幼い頃から戦国武将が大好きで「自分も将来は日本を動かすような人物になりたい！」と思うようになり、日本を動かすことができる職業として、経営者、政治家、教師の３択に絞り、最終的に経営者を選びました。そこからは、高校、大学、アルバイト、社会人と、起業する際にパートナーになって欲しいと思う人物探しが始まりました。結果、起業前には約10名に声をかけ、4名が起業に参画してくれました。その一人は八千代高校の同級生です。

　私の高校時代は大して華々しいことはなく、浪人した１年間だけは必死で勉強し苦しくも充実した一年となり、その結果、早稲田大学に合格できました。大学時代もアルバイト、麻雀、合コンなどと遊び呆けていました。世はバブル真っ只中。世に言う高度経済成長時代の４種の神器（終身雇用、年功序列、退職金制度、年金制度）の最後の頃でした。周囲は「大企業に就職さえすれば一生安泰だ」と勘違いしていた頃。私は「そんな楽な話はあるのか？」と常に何か心に引っ掛かるものを感じていました。その後、バブルは崩壊し、大企業といえども全く安定していないということが現実となりました。真の安定とは「どんな環境でも生きていける、自分自身に力をつけること」だと実感しました。皆さんにお伝えしたいことは「若いうちの苦労は買ってでもしろ」と言う格言にある通り、迷ったら難しい方、皆が選ばない方をあえて選択し、挑戦して欲しいということです。それが必ずや自分の糧となり、若いうちに身に付けた実力、経験、ノウハウ、人脈が大きいほど、年齢を重ねた後の人生が充実したものなるということを知っていて欲しいと思います。皆さんの今後の輝かしい人生を、心から祈念しています。

DIGITAL HOLDINGS

略　歴

1986年 3月八千代高校普通科卒業

1991年 3月 早稲田大学 商学部卒業

1991年 4月 森ビル株式会社入社

1994年 3月 株式会社オプト（現: 株式会社デジタルホールディングス）設立

代表取締役社長グループ CEO就任

2020 年 3 月 代表取締役会長に就任

2020 年 7 月 株式会社デジタルホールディングスに社名変更 (現在に至る)

東証プライム（旧東証一部）上場　証券コード2389

栄光の記録

2023年度に大会に出場した部活動などを紹介します。

女子柔道部　北海道インターハイ2023に出場

３年　横山　美月

8月11日12日に札幌市で行われた「飛び立て若き翼 北海道総体2023」に出場しました。

私は、2年時に全国大会において2度の5位入賞を果たしました。日本一の夢が明確な目標へと変わり、その目標を達成すべく最後のインターハイに向けて日々の稽古に励みました。
6月の千葉県総体で優勝し、他の階級を制した八千代高校の3年生3名と共に千葉県の代表となりました。勝負を懸けたインターハイ本戦は、力及ばす2回戦敗退となってしまいました。思うような結果を残すことができませんでしたが、ここに至るまでの過程は私にとって意味のあるものでした。この一年間は、勝たなければいけないというプレッシャーに何度も負けそうになり、何をやってもうまくいかない日々が続きました。先生方や家族には様々な相談に乗ってもらい、多くの人に支えられて柔道ができていることを実感しました。

高校卒業後は、東海大学に進学し新たな環境で日本一にチャレンジします。支えてくださる皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに、競技力と人間力を高めていけるよう日々精進していきます。

女子バスケットボール部　関東大会でベスト８！

３年　八木ケ谷　澪

6月に山梨県で開催された令和5年度第77回関東高等学校バスケットボール選手権大会女子Bブロックに22年ぶりに出場し、ベスト8という成績を収めることができました。

１回戦では、東京都7位の文化学園大学杉並高等学校と対戦しました。自分達が得意とするゾーンディフェンスから流れをつかむことができ、8点リードで前半が終了しました。後半は相手のシュートが入り、追い上げられる時間帯もありましたが、全員で粘り強く最後まで走り切り、80対69で勝利することができました。
同日に行われた2回戦では、茨城県2位の下妻第一高等学校と対戦しました。相手の速いペースについていくことができず、76対85で敗れてしまいました。

県トップクラスのチームと同日で2試合対戦することの厳しさを痛感し、体力面や技術面の向上がもっと必要だと認識することができました。関東大会を通して、練習してきたことが強いチームにも通用し、一人ひとりの成長、そしてチームとしての成長に大きく繋がったと実感しています。全員で切磋琢磨し、もう一度この関東大会の舞台に立てるよう、頑張っていきたいと思います。

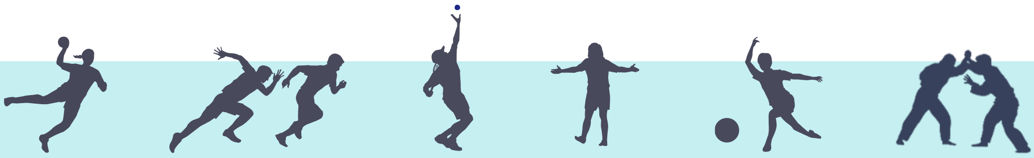
山岳部　2年振りに関東大会出場！

２年　藤田　優真

山岳競技は1チーム4人編成で、①行動審査(120点) ②知識審査(45点)③生活審査(35点)の計200点を争います。4人で合計60kgのザックを背負っていかに速くゴールまで登りきるかという体力が重要なのは勿論ですが、安全に登山を行うためのテント設営や装備品、炊事の実践や気象知識に基づいた天気図の作成、登山行動中にGPSを使わずに地図を読む能力、救急知識など審査項目は多岐にわたります。5月に行われた県予選会で5位に入賞し、千葉県代表として2年ぶり6回目の関東大会出場を果たしました。

3年生は総体で引退となるため、10月に埼玉県奥秩父で開催された関東大会には2年生4人が出場しました。
春の優勝校(今年は県立千葉)はすでに8月の全国大会に出場しているため、秋の関東大会は順位を競うのではなく、１都6県の56チームが3日間テント泊で行動を共にしながら、それぞれグループごとに4つの山域に登るという研修会的要素が濃い大会です。好天にも恵まれ、普段はできない他県チームとの交流は大変新鮮で有意義でした。

ぜひ来年も出場できるよう、日々の練習に励んでいきたいと思います。



サッカー部　関東大会出場　準優勝！

3年　吾妻　蒼太

6月に東京で行われた関東高等学校サッカー大会Aブロックに7年ぶりに出場し、準優勝という成績を収めることができました。初戦では、栃木県代表の白鴎足利高校と対戦しました。試合の入りから積極的にゴールを狙い続け、セットプレーから先制点を取りました。その後も主導権を握り続け、3-0で勝利することができました。

準決勝では、埼玉県代表の武南高校と対戦しました。前半開始早々に先制点を取られましたが、すぐにPKで追いつきました。この試合も前半から主導権を握り続け、ゴール前のコンビネーションから相手を上手くかわし逆転に成功しました。後半も２点追加し、終盤では相手に点をとられましたが4-2で勝ちました。

決勝では、東京都代表の修徳高校と対戦しました。開始早々から３点をとりましたがすぐに点を返されてしまい3-1で前半を終えました。後半途中までは八千代のペースでしたが追加点を取ることができず後半の追加タイム前に点を決められてしまい、その後相手の雰囲気に負け同点に追いつかれ延長に突入しました。延長戦でも相手に2点を取られ3-5で負けました。この大会では多くの選手が関東大会という大きな舞台に出場し大きな収穫を得ることができました。

女子ハンドボール部　関東大会12年連続出場　ベスト8！

3年　佐藤　千沙

令和5年6月に茨城県で開催された令和5年度第69回関東高等学校総合体育大会ハンドボール競技に12年連続で出場し、ベスト8という成績を収めることができました。

初戦は山梨県の駿台甲府高校と対戦しました。序盤は自分たちの流れを掴めずに苦戦しましたが、徐々に緊張も解けコンビネーションプレーで着実と点差を開き24対11で勝利する事ができました。 同日に行われた2回戦では東京都の都立府中高校と対戦しました。1試合目の疲れが目立つ中での試合となりましたが、25対11で快勝する事ができました。 翌日の準々決勝では、練習試合を重ね共に切磋琢磨してきた神奈川県の川和高校と対戦しました。八千代高校のスピードある1対1と川和高校の左利きの選手からの崩しが光る、白熱した試合展開でした。3点を追う中で後半戦が始まり、厳しい状態が続きましたがチーム内で鼓舞し合い貪欲に八千代らしく最後まで戦い抜きました。

昨年と同率のベスト8という結果で終わり、ベスト4の壁の高さと自分たちの実力の差に悔しさが残りましたが、関東という大きな舞台で千葉県代表として戦えた事はとても誇らしく、良い経験となりました。

陸上競技部　関東大会９種目出場　３種目入賞！

2年　福貝　紗良

6月に山梨県JITリサイクルインクスタジアムにて開催された関東高等学校陸上競技大会では、男女合わせて9種目で出場することができました。

レベルの高い強豪校がそろい、緊張感の高まる中でしたが、出場した選手はそれぞれベストを尽くして走りきることができました。中でも女子400mと女子4×400mRでは予選でベストタイムを出し、決勝に進むことができました。しかし、決勝ではどちらも8位という結果に終わり、インターハイへ繋げることができませんでした。大きく差を広げられてしまった決勝の舞台は、力不足を実感させられました。

負けてしまった悔しさや、先輩方と走ることができるのが関東大会で最後になってしまった悲しい思いが溢れ、涙が止まりませんでした。同時に0.1秒を争う陸上競技の厳しさを痛感しました。しかしこの気持ちは、もっと強くなりたい、勝ちたいという思いを更に大きくさせてくれる、私たちにとって大切な経験となりました。また、今年味わった悔しさは1人1人が目標を持ち、それに向けて頑張っていこうと改めて気持ちを高めるきっかけにもなりました。これからもインターハイ出場を目指して、顧問・部員一丸となって日々の練習を頑張っていきます。

青春群像

現在、八千代高校では、運動系15部、文系16部が活動を行っています。今回は３つの部活動と１つの委員会活動を紹介いたします。

女子テニス部

顧問　重永　達彦、岡﨑　友太郎

女子テニス部は現在2年生4名、1年生3名で、千葉県ベスト8を目標に活動しています。少人数ではありますが、恵まれた環境の中で今の自分たちに何が足りないのか、その課題を解決するために何をすることが必要なのかを考えながら日々練習に励んでいます。今年度の関東大会県予選とインターハイ予選は共に千葉県ベスト16という結果だったので、先輩たちの戦績を越えられるよう、努力しています。

勝つことももちろん大切ですが、八千代高校女子テニス部で何を学ぶかを大切にし、地域貢献活動にも力を入れています。今年度は地域のお祭りのテントの片付けに始まり、「新川だョ！全員集合」でおこなわれたミニテニス体験会での手伝い、小学生向けのテニス教室を行いました。特に小学生向けのテニス教室では、プロコーチをお呼びし、選手たちがレッスンのお手伝いをします。テニスが初めての小学生たちが夢中になってボールを追いかける姿、「とっても楽しかった」、「テニスを習ってみたい」という言葉に選手たちはよろこびとやりがいを感じています。テニスを教えることで、改めて自分のテニスに向き合うきっかけにもなっています。

今後もテニスを通して日々成長する選手たちの応援をよろしくお願いいたします。

男子ハンドボール部

顧問　小林　大介

ハンドボール部男子は、6月に3年生が引退してから新体制として2年生7名、1年生4名で活動しています。「県大会ベスト4」「関東大会出場」を目標に、全員で一生懸命練習しています。

今年度出場した関東県予選、総体県予選ではどちらもベスト4をかけた試合で第1シードの高校に敗れてしまいベスト8という結果でした。目標に掲げていた関東大会出場を叶えることができず全員が悔しい思いをし、上位の学校に勝つことの難しさを痛感させられる大会でした。しかし、この経験は今後に大きく影響してくるものだと信じています。

ハンドボールは、ゲームスピードが速い競技で日々の練習でパターンの練習を磨いていますが、実際のゲームとなるとほんの一瞬の出来事で状況判断をしなければなりません。思考・判断は実践を通して身につけられていくので毎日の練習で技術力を磨いていくことと実践を想定して予測できるように日常からこだわって練習しています。また、チーム力が高まるようにコミュニケーションを大切にし、高校生活において勉強との両立をさせ、人間性の成長も求めながら目標に向かって全員で挑戦していきます。

ハンドボールという競技を通して、日々の努力と感謝の気持ちを忘れずに、最高のチームとして一生の思い出になるようにこれからも精進していきます。応援よろしくお願いします。

文芸部

顧問　西　博史、浅田　峻

文芸部は、３年生３名が９月の文化祭で引退し、現在2年生３名で活動しています。これでも年度当初から増えました。これからも部員を増やすべく、1年生をはじめ「いつでも募集中！」と声掛けしています。

部員の多くは他の文化系部活動と掛け持ちをしている関係もあり、活動できるときに無理のない範囲で行っています。特に漫画研究部とは兄弟部活といっても過言ではなく、部誌をコラボして発行しています。実際、文化祭においても、発表場所も同じ会場で部誌の提供を行いました。ちなみに普段は、地学教室をお借りして活動しています。

その部誌ですが、昨年度は年２回の発行にとどまってしまいましたが、４回発行を目標に熱心に取り組んでいるところです。内容については、特に限定されるものはなく長編でも短編でも可能で、掲載はジャンルを問うことなく、小説・エッセイの散文から詩や短歌といった韻文もオッケーです。このように自由でのびのびと楽しく活動しているのが文芸部です。

図書委員会

顧問　齋藤　洋子（学校司書）

↓HPのQRコード（本のイラスト入り）

　生徒会組織として、クラス代表2名ずつの合計48名で活動しています。年に一度の全体会議で活動計画の概要を確認し、各学年をグループとして連携し、図書委員全員が緊密に連絡を取り合うことで活動の幅を広げています。
　全員参加の活動は、カウンター業務の他に読書啓発ポスター作成、本のPOP作成（コピーを校内に掲示し原本は近隣の公共図書館に提供）「図書委員の一押し本」の紹介です。この原稿は毎月発行の図書委員会だよりに掲載しています。その後「新入生におすすめする本」の冊子に編集して配付し、夏休みに八重洲ブックセンターで開催される、ブックフェアでも活用されています。また「朗読劇と音楽の集い」では役員と有志が参加し、市内の高校生と共に朗読劇や詩の朗読を披露しました。また4校合同読書交流会では八千代特別支援学校の児童生徒に朗読劇『星の王子さま』を実施し好評を博しました。これらの活動は図書委員会だよりを通して全校生徒に報告するだけでなく、ホームページに掲載することで保護者や地域の方にもお知らせしています。
　今後も本を介して人と繋がる橋渡しとして、読書活動推進のためにできることを楽しみながら活動していきたいと思います。

光よ若き花に降れ

新しく八千代高校に赴任した先生や八千代高校OBOGなどを紹介します。

「八千代高校に赴任して」

教頭　柳橋　宏昭

　私と八千代高校との繋がりは、昭和60年４月オレンジ色のユニフォームに憧れを抱き入学した時に遡ります。「無我夢中」で過ごした３年間でした。その後、平成13年から同21年まで保健体育科教諭として、「今、自分にできること」を自問し、多くの生徒たちからパワーをもらいました。互いに『自分を高めることへの挑戦』を続けた９年間でした。
　そして、令和４年４月、12年ぶり三度目の八千代での生活となりました。教頭として着任し二年目となりますが、考え方の基となるものが、八千代高校で「学んだこと」、「伝えたこと」、「共有したこと」でした。再び、『良い準備』にこだわり、振り返ることのできる『日頃』の積み重ねで勝負できることに「感謝」いたします。
　改めて思うと、私の強みは『出会いと繋がり』に恵まれたことです。今まで、節目では最高の「メンター」との出会いがありました。中学校サッカー部顧問の「鈴木雄二先生」（体育科４期生）との出会い。その“おかげ”で高校３年間の担任「越川均先生」との出会いに“繋がり”、教師を目指し、指導者になったことで八千代高校サッカー部初代監督「青木克己先生」の教えをいただきました。八千代高校との『繋がり』と多くの『出会い』の“おかげ”の人生です。
　今年度４月に先生方と共有した言葉です。自分と関わりのある全ての人のために「まっすぐに…」「いますぐに…」「そのさきに…」を大事に、「これで良いのか八千代高校は」（独立50周年記念誌_青木克己先生の言葉より）を振り返りのキーワードとしました。
　八千代に必要とされていることの責任を受け止め、「今、自分にできること」を全うしたいと思います。同窓生の皆様、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

「八千代高校と私」

教諭　上芝　俊介

　私が進学先に八千代高校を選んだ理由は、中学校3年次に小学生の時からのサッカー友達に誘われたからでした。誘われるまで高校名も聞いたことがなかったので、偏差値だけ本屋に行って調べ、まずいなと思いつつも夏休み明けに担任に相談したら「絶対に落ちるからやめておけ」と言われ、見返してやるという思いだけで猛勉強を始めました。
　入学してからは驚きの連続でした。家政科、体育科があるし、サッカー部は強く、部員も多く、先輩もものすごく怖かったです。サッカー部ですぐにレギュラーとれると甘い考えで入学したため、先輩はもちろん同級生も私より実力がある人ばかりで、試合に出ることすらできませんでした。私自身に何が足りないのかをよく考え、毎日誰よりも早く来て練習していました。2年生の夏からレギュラーで試合に出場することができ、3年生の夏のインターハイでは広島県の広島皆実高校と同校優勝になり、納得がいかずふてくされていた表情をテレビに映しだされてしまいました。最後の大会ではI立F高校に惨敗し、今でもあのユニフォームを見ると悔しさがこみ上げてきます。
　大学を卒業後に一度就職をしたのですが、それがうまくいかずサッカー部の方で4年半ほど外部コーチとして関わらせてもらい、その間にもう一度大学に行き、教員免許を取得しました。何としても母校で教員をと思っていましたので、3年前に赴任できた時は心が躍りました。今の八千代高校生は本当に素直で優しい生徒が多く、私自身が疲れている、辛い、めげそうな時などに物凄いパワーをもらっています。八千代に入学してよかったと一人でも多くの生徒に思ってもらえるように、より一層の努力をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

八千高ニュース

昨年、八千代高校の出来事や話題になったことなどをお届けします。

第55回日本PTA関東ブロック研究大会ちば大会
鼓組・書道部合同アトラクション

令和５年10月29日、前日から開催された表題大会のオープニングアトラクションに鼓組・書道部が参加しました。今回のお話は、約２年前に勝田台地区小学校のPTA会長様からの依頼を受けたもので、前年度から大会実行委員会との打ち合わせを重ね実現したものです。

９月の八千代祭文化の部の後、３回の合同練習を経て、10月28日に前日リハーサルを行い、本番のステージに立ちました。当日、会場である千葉ポートアリーナのメインアリーナに約1.200名の観客が集まる中、豪快な和太鼓の響きでアトラクションの幕が開きました。鼓組の「大祭」の演奏で聴衆を魅了した後、書道部が入場、縦８m、横12mの巨大な紙面に大会スローガン・研究テーマ等を書き上げました。最後に「ぶち合わせ太鼓」の演奏で締めくくり、生徒全員で観客の皆様にご挨拶をして無事終了することができました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった方々、生徒たちのパフォーマンスを支えてくださった方々に心から感謝申し上げます。

（文：鹿野　美彦）

地域貢献で音楽の魅力を発信～吹奏楽部～

今年は、地域のイベントにお声を掛けていただけることが多く、世代を超えて私たちYWOのサウンドを届けることができました。5月は『第19回緑が丘ローズハーツふれあいフェスタ』、９月には『三世代交流ファミリーフェスタ秋まつりin勝田台中央公園』、そして12月は『八千代警察署の年末年始特別警戒及び冬の交通安全キャンペーン』に参加をしました。

特に野外で実施をしました秋まつりでは、約2時間の公演を照り降りの中で演奏いたしました。吹奏楽をバックにソロシンガーで会場をダンスの渦に巻き込んだり、カラーガードを入れたり等、三世代が一緒になって楽しめるようなプログラムで盛り上げました。地域の方々は勿論、先生方や保護者も駆けつけてくださり、私たちも楽しんで演奏をすることができました。

先となりますが、「第37回定期演奏会」を令和6年5月6日（月）に八千代市市民会館大ホールで開催いたします。日頃の感謝を込めまして準備中です。御来場お待ちしております！

（文：富田　瑠美）

総合的な探究の時間

数年前に総合的な探究の時間の在り方を見直し、高校３年間を通しての「キャリア教育」ということに主眼を置くようになりました。大学で何を学びたいか、将来どのような職に就きたいか、どのような大人になりたいのかということを考えながら進路選択をするよう促しています。

まずは社会の出来事を知るために、全学年始業前の５分間で社説などの新聞記事を読むようにしています。総合的な探究の時間の中では、卒業生を招いて大学の授業やゼミの話をしてもらう学部別ガイダンスや、大学教授を招いての大学模擬講義会、高大接続事業などを通して大学や大学で学ぶことについて理解を深めます。また、話を聴くことや調べることに留まらず、２年生ではポスターツアー、３年生ではゼミ活動の成果を後輩たちの前で発表し、仲間との協働やプレゼンを経験することで高校卒業後に必要な力を伸長させる取り組みをしています。

世の中と大学のことを知ったうえで、自分に適した道を見つけることがキャリア教育の目標です。

(文：川﨑　希美)

劇団四季「美女と野獣」観劇
３学年校外学習

劇団四季の「美女と野獣」を観に行きました。当日は生憎の曇天であり、舞浜の冷風が身に染みる1日でしたが、役者陣の演技と圧巻の歌唱力、そして鮮やかな舞台演出に、生徒たちは皆見入っていました。終演後の劇場の外には、演劇の感想を言い合って盛り上がる、朝の寒さを忘れるほどあたたかい笑顔の生徒たちで溢れかえっていました。

「美女と野獣」には、「変化」というテーマがあるように思います。若き王子が魔法で野獣へと「変化」させられること、初めはすれ違っていた野獣と村の娘ベルが、ある出来事を境に心を通わせるようになるという「変化」、そしてクライマックス、魔法が解けて野獣から人間へと戻る「変化」、などなど。2人の歌う「何かが変わった」という歌詞にも表れる「変化」は、どれもふとしたきっかけで起こったものとも言えます。

受験勉強等の息抜きの機会として参加した生徒も多かったのでしょう。翌日朝の教室で見る生徒は観劇前より一層勉強に熱心で、この観劇も生徒たちの「変化」のきっかけになったのだな、と（勝手に）思ってしまいました。

(文：浅田　峻)

編　集　後　記

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この同窓会会報は、同窓生と八千代高校を結ぶ架け橋です。母校がどんな様子か、後輩たちがどんなに頑張っているか、先輩たちがどんな活躍をしているか、などをお届けします。

2024年は元旦から能登半島地震やJAL飛行機衝突事故など天変地異の年明けですが、皆さんは焦らず、自分の目標に向かって学業・職務に取り組んでください。また、8月のパリ五輪では八千代高ゆかりの２選手を応援しましょう。末筆ながら、お忙しい中、寄稿してくださった方々には深く感謝申し上げます。

（編集長　金子　保敏）

発行人：千葉県立八千代高等学校同窓会　会長　後藤　真
編　集：同窓会報編集委員会
八千代市勝田台南1-1-1（八千代高校内）047-484-2551